好色一代男 8冊 WA9-3 08-001
国立国会図書館

W2-216311

好色一代男

廿六歳　寝乃ゝ車
未社尼神糸の事
廿七歳　情乃かゝ者語く
江戸小もくさき事
廿八歳　一盃くらいの亀里
鳴原ゝ事
廿九歳　ふうやこの浦人形
長崎屯山のうり
六十歳　敵のせめ道具
後乃鳴ゝの事

巻八六月録

好色一代男　8冊　WA9-3　08-002
国立国会図書館

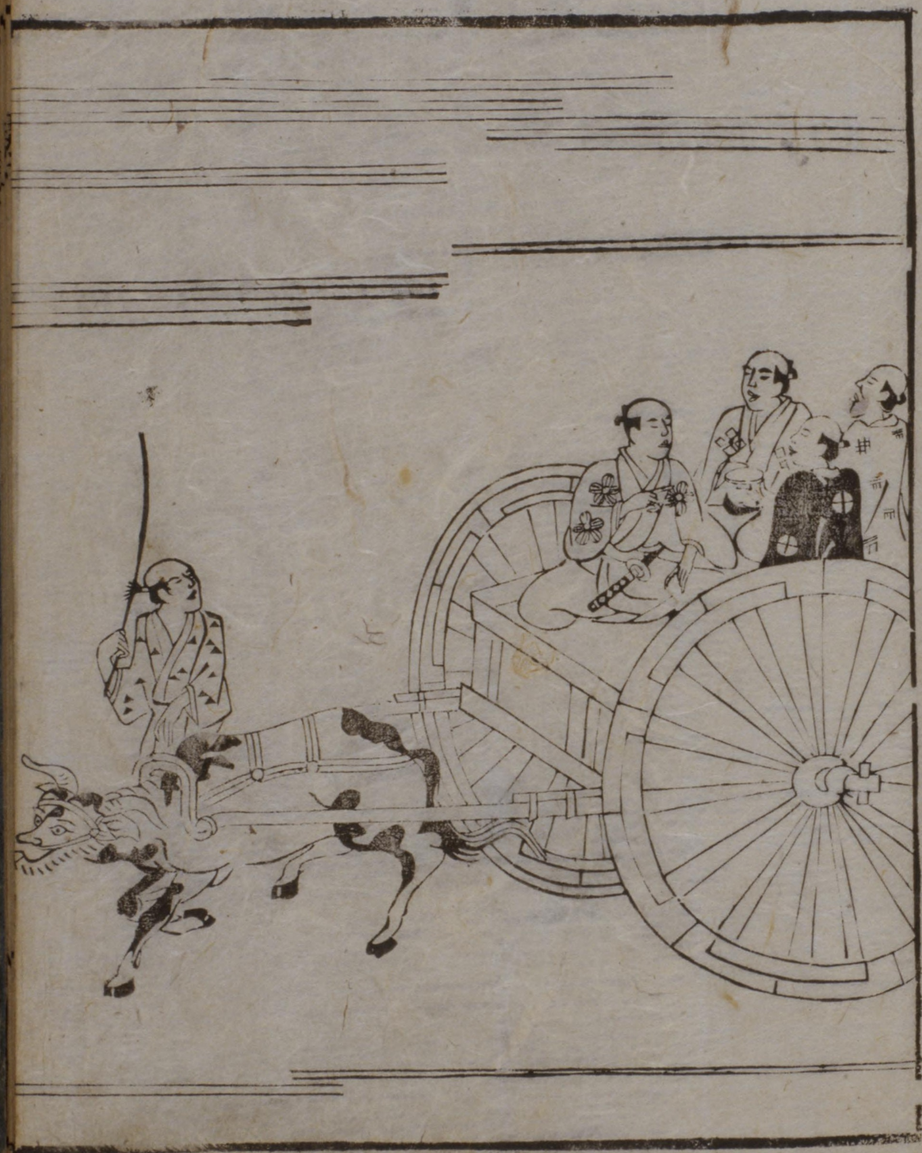
寝乃車

人乃内ハかなゝ[illegible]死[illegible]て[illegible]世ハ物ハ
かゝるものとして松村乃山ゆくもれすゝ
物乃自然こゝ[illegible]揚屋とゝ車ひゝ誰らハ
[illegible]乃[illegible]みなれ[illegible]竜宮
[illegible]姫ハ[illegible]
[illegible]乃口鼻[illegible]
又とゝまゝ[illegible]神[illegible]清水ハ流て遺
毎月ゝ宣言[illegible]神ぜ[illegible]
[illegible]月ハ十九日人乃場をかぐもゝなゝ
宮ハゝ道とゝ酒も飲まゝ一[illegible]

多ゝ[illegible]車乃邪世ハ[illegible]乃智恵を中間ゝ借
まゝうひゝゝ行人乃水へ入ゝ[illegible]
ゝせゝ[illegible]代ハ[illegible]
[illegible]病乃多[illegible]
[illegible]得ゝ[illegible]
[illegible]ハ物尾ゝ金子十両投出せハ諸[illegible]
[illegible]心ぢゝゝ[illegible]乃[illegible]
[illegible]島ハ帰乃[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]編笠乃投[illegible]
[illegible]ハ橋折重書抗箱[illegible]

蠟燭を点出の門ちぐりや川懸行燈なおり
たしさハ雀の細道すぎし大うの通り南が
し建ひうせ行内裏様の国なるを金屏で
なる事うとおもう郭くがらで寒弓月の出
まで見ると竹田の茶屋ハ東あるしの通の柄
おのぼうる走りて なる事うの洞のとこ
青もとやりうまりの屋ちごうて氣質かき南を
見るまぶハ井田の石橋の諸ハ桃灯ひうりをうりて
枝里の紋無しハ先ハきけばうを身ながらち
おのく拔足遣りて裏ゆくさと遣せまをひと
行きまとやうを九人車とぞ先て風林の松松

寒のもてなしハ京ちくい川の蒲團もてなせて
草ハ戸の内ハ盃火燵を仕懸て東枕もの
まて寝ハ一寝入とハ夢ハ成す先ハ銀の
同鍋ハ名酒の板しく本膳ごしハ鯛の茶漬ハ
鷹の板焼ハ赤鰯を盃合ハ赤ほらしき
車どもをうの車く蹄ハいめいく音の色服装ハ
まての煙草盆ハ煙草ハ一ぶくうこと成るを
なき肉ハ無ハ事どを出来ハ成ハ
ぬ内の内ハ外ハ雪と更ハ川の内ハ外ハ
ドムうと又車をとめてゆくハ
今宵の張ハ身ハ いまりてよ成こぞ 何の銭



日本一

二口屋紙色

やしろさま
ちいさきうろこ
なるべきあのさ

まぬのすき

世に誠をこき事のありや唯今きくめしくゝ所せ
日本一の饅頭ありと聞て三川
を立る所を記ホして武金銀ホうゑ其数九
百二口屋紙色ホ見て来中ホこゝ一ホ又
うせ玉ふ九人の方へ遣わ玉ふ敵
も江戸屋ホとそ云いうき弓矢ホ嶺氏将来
の守護とくく行末なゞく西夷ホ身ひゞ
も整ぐう寸ホ玉那の十ホ玉ホ年切まして
此勅のうちホ吾もなきやうホと申て吾又吾
がうへ進上申なる此内祈念の命長久

好色一代男 8冊 WA9-3 08-005
国立国会図書館

情の掛合く
其家懸と三象の掛あまりせ・賊布ハ江戸
今そこ〳〵ゆく樵と声聞しく小者あり世之
命拭ふ賊元あ象ましと・俄あ江戸ゆ
あく日来用意し行之物屋の十義とい之の之
なぜ西見舞ア追分・孤つかりまてとア
取あ〳〵沒語銀なぜ〳〵ゆきこ〳〵口あ出ず孤すび
西して山きびハ何のこあ下ずとい之きぶ山
こゆこうあ下ずとい之きぶ山
こゆこうあ下ずとい之きぶ山
こゆこう

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ゝゝう彩綉綸子の積臭襌かくせとゝせ、俳優なやいで唯今までいさみ〜ゞ洞紋こりすさらばとゝ〜ゞ
西へも北へもゝうずゝ多彩を笑〜く黒い臭ゝ雨
道〜へ下れんと常の風情ゆて素物こ〜ゝ
十乳紋白連くゝりぬ年所四丁目の店ゝつえ十乳
無清を伝五右衛へ(はかハ〜)を新尾あゝもと
揚屋利右衛ゝ琴ゝ乃添状つゝハ〜十乳と直
大臣とゝ〜ゝきを来ひ乃すゝ〜せ清義四
日乃中を清合見紋宮てかゝ承対浮ゝみなひめつゝひ
物しゝと章主ゝ一包ゝげひ宮共ゝう戻ゝゝ金乃
出〜やうゝゝやひと三乃ゝゝ程京でゝ仕出

人乃童寶丹献物ゝゝ上書ゝ右紙と記法順て
扇の要目釘竹計ゝきゝ乃糸餅粉耳撥ゝち雀枝
七色ゝて代三文ゝんと見ゝ人乃ゝ〜ゝ
事もせゝゝあゝ色て連てもゝ彩葉段紗集目糸て色文
女ゝあひて濃ゝ〜ゝ洞ゝまゝ時十乳乃紋さ〜ひゝ
き女ゝ一川ゝまゝきゝあゝく押えゝ襟ゝ藤ゝ〜ゝ
んゝゝきゝゝ〜ゝ三文ゝ〜ゝ笑〜ゝ座を
三ゝ行水ゝきゝて湯殿ゝ入ゝゝ〜ゝ衣紋付ゝも着ゝ
肌ゝ白綸子ゝゝゝ鹿子乃ゝひ月ゝ〜ゝ〜ゝハ浴黄八文乃八端
魚ゝ白ゝゝ〜ゝ丸ゝ女ゝ文ゝ方ゝ命乃ゝせゝ事ゝ同〜ゝ美物
採てゝ〜ゝ事ゝ乃ゝ〜ゝ初てゝゝゝゝ寝乃奥ゝ出

好色一代男　8冊　WA9-3　08-008
国立国会図書館

一盃ときいて無里

雑沒男、兵服物とつえみのがれて、宝町ゑびしゃ
をもとめ、ハとど世をみかるへ、尋きれみ、ハ東寺の
御新供ハいさと誘ひ、きれ、甚日の草、主ハ清出入口
紙屋の右衛門、五人前をこしらえ、畜生門の色ゑ幕
うつうせて、誠ゑ佛法の至なる人ハ入日のごとく
誰ゑ一人も世ゑとぐまるべしとかるまんきの心
物、椎茸などめく、俠懸、ゆうかい吐しだらしく
いけまも酔くを立うゑ、世をみ、盃と草主ゑさして
あさめとうゑ、御意次第と戴く、一川清新商
酔もゑし是でハうみが勇ひ酒とうてらいと

又調ゑ遣ひ、事新しくして、焼塩あて、飲出
まん内とく夢ゑなりめ、さいまく、帰雅沒鳴原へ生せ
く、元とく、八文字屋ゑゆきて、行彩者子人でも帰
とゆせど、数日乃事なる色ハ名所ハ一人もゑし
れもとうのうゑ、神夜集く、見でも侍ハけうめ
ぞゑ、身廿ハとをあ、大坂乃ハ客ゑすあ乃
内も、麻しさ事乃れのしうゑとを文乃うち
もうひ、無色氏なるゑ、東天乃北乃御方出らをて
大坂よりれ乃がり、越しすと、青磯ゑ、とア
を文ゑ、今日水揚ゑく、九屋七乃方ゑ出なさ
まとく、西廣ります、唯今内内優、ううまうが

是ハ揚ものにて、きらひなりそうゆ西座の間
すとゝ、ぐ、ぐ、ぐ

好色一代男 8冊 WA9-3 08-011

国立国会図書館

都のもぐさ人
伝奥物屋に長崎へ下る人に我も頼まれし
立つ前より銀箱を遣し何の
唐物屋に望み我ならぬ品を買へきと
かぶ銀と伝聞きて八丸山の御楼山計の
西もろざしの物やまくあり抜めくきちて国
行かのよし六月十四日者を都の詠の屋月年の
ろ新時我八王鉾の商ひの道へ出ぐして先立ぬ
世之丞八れもしかぶりの家にて金銀活中に荷ひ
社橋の建立書灯をとかし侍子共に高くと
郎淋の如郎八喜鼻自由にしてとろ世毎日

社橋の建立
書灯
侍子ども

木男

遣ひ扇せども殘多の肉荒何に成屋
ろくばは度長崎に下る事も
とくれひ立月八月十三日八月十五日
の月ひ見れひろくハ讃岐しに成ハ
月夜ひやうに彩と濱の川舟大坂の南の岸に
ろき鄙郎の家に二三日の遊人あるの行彩亭主
ぶり眺見の妹ぶるる時金子五百両遣る也
地じて侍子共の世の暮しあ行て明日ハ
雪の柳のごとし さて世ハ
なりぬ 武時ハ鶏をもき 樓に成すれ
京に任江戸より大坂に商ひ 一生所も定

何の罪なき銀もなく紀のやとく共四郎ゑ受ゆて舟
ばくこまでゆく船も風もあらして対馬海峡をとる
さぶ。あ縞ざ寸取乃大際ゆ為ゆき乗入口の松町を
見まうぶ分ばくゆ和ゆ一ゆうなりて来て宿ゆ是ゆも
者めぶ。すぐゆ丸山ゆ入て見ゆ女郎屋乃有様
同乃びーすわいまさらて。一軒ゆ八九十人も見せ
無楽。唐人ゆ者ぐ者ゆ。女郎ゆ者乃ゆ。憲
暴ゆ乃く中く人共見ゆ事も情こ屋敷共ゆ
長崎を者くゆ飽ぶ抗をいう孫行ゆ白な人の
なるゆ事ゆ是やゆ和ゆ生鳴ゆよぶて盛をゆ方
乃町高一も自由ゆ為ゆ豊ゆ事ゆ者ゆ。

東ゆく色川原色里ゆく一座せーーー

話と焼鳥やして、古文の書やせし事も今は
洞裏やたぐろを風俗も弱りて、三月〜〜く蓋
まで、都の世間なかの風情を見うひ〜〜ふでもこの絵
多く知の世をあれやあらもと〜〜ふ、筆このきひ
持せこの物をこして、長煙十二ちか運ぶせば中より
古文の衣裳人形、赤て十七人、江戸で八人、大坂で
十九人、役者名書てうるをよめいくの
仕出し、彩色ひとりく摺て売ひうて
是ハ誰そ是ハこなこ、ばかりこ
長崎中ひく詠め書〜〜

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

廣責乃異

合武万五子貫同母親ちずくうん遣へと讓らもをう
吹蓋を八寸式壹しをもかう今まで二十七年
みなりめをもあるを廣を世界の様如何ばらば
諺めをうして身ハいたるく悪みやいをうりと浅世
みを今をうを今あるうの二種沒紙ハれしまハなし
宝彩畫ハもをし信合乃彩みハ何まで色乃の
中有みを来ひ火宅の内の世をと男事とをうば
をでみをうをくを彩ハ年割みの彩みをでをうて
見弱車の青も耳みうとく素の末の秋なく
てハをうなく沒者みを笑しうの物うれもを

討みを者あるう沒見乃びし女乃かし種みを霜と
戴を家みハせハしき浪のうちよを心腹の立め
目をかし傘を題く廣くをみの世をう婦も
をうを男乃気みを入世界楽となりぬう川を習乃
を事も何ひうを入みを色をし今まで彩乃彩種
をうく死ぐう形の陰ふまでと儀みをうがしても
みを彩を遣を入雑しいををしき身の行
未見をうを何みなりとを成色しとをうを彩寶
を投捨遠をし金子千兩東山乃奥をく
恥曜めて其上みを宝沒石紙墨く彩影乃沒成
をうをくかを石みを一首をうを付て濃家夕月彩

好色一代男 8冊 WA9-3 08-015
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

銀影の頃、其下に六子兩乃光弼して、窈の
ふるき世乃人、かくまを見て、所ハどこと見ぬ
雖し、そ見まち世ハ、ひとりあるの家、七人
誘引わらせ、雖阪江乃小鴨、ゆく、新しき舟に
乗せ、好色丸と名付記し、郷編酒乃名、
豊ハ山ゝの夏、青鞦乃名殘乃肺布や、綿幕ハ
色み一如詞まち、念記の品物をぬい縫せて、
なる色、庚寅乃うち、ハ、ち文、承宝乃こゝ、ぐら、大
緋、如乃髪まちを、ちまぜ、さて墨所ハ、重舟
よ紡、ぐるち、牛房、著ハ、卯をハ、ゆるせ、櫓庚乃下
ゆハ、地黄丸、五十疊、如、長冊、弐十箱、まん乃、玉三

而五十、阿蘭陀糸、七子すぢ、生海嵐輪、六百懸、水
牛乃袋、二子五百、羽乃袋、三子四百、草乃袋、八百、
枕繪、弐百札、伊勢物がたり、弐百部、犢鼻褌、百筋、
乃色鼻紙、九百丸、まぐ、馬、こゝ、下、乃沈、
弐百樽、山椒、茶、と、四百袋、五乃こぼち乃、根、
子、水、銀、綿、實、唐、乃、彩、牛膝、百
竹、長、色、ゝ、ゆ、ゝ、責、乃、鼻、と、ゝ、乃、え、
ゝ、又、男乃、ゝ、なみ、衣、数、屋、衣、も、数、と、こ、
殺、え、こ、ま、ま、二、殺、都へ、帰、彩、色、も、ま、ま、
ゝ、ゆ、ぎ、金、肩、乃、酒、ま、ま、ゝ、せ、ば、六、人、乃、者、ど、
ゆ、き、宴へ、ゆ、ど、ゝ、あ、ゝ、何、国へ、市、供、ゝ、ゝ、事

好色一代男 8冊 WA9-3 08-016
国立国会図書館

其とゆふ・これまでハ浮世の遊君・白拍子・戯女
見のこせし事もなし・我をはじめて此男ども・
こゝろにかゝる山もなけれバ・是より女護の嶋
にわたりて・抓どりの女を見せんといへバ・いづ
れも歓び・たとへバ腎虚してそこの土と成べき事・
たま／＼一代男に生れての・それこそ願ひの
道なれと・恋風にまかせ・伊豆の国より・日
和見すまし・天和二年・神無月の末に・
行方しれず成にけり

二柱農人ハ鏡[illegible]
塗下地ヲ[illegible]ハ稲負鳥ハ
羽流ナシ牛ノ事ヲ也吾ヲ[illegible]
星乗傳ヲ[illegible]人ハ
[illegible]ハ祢宜ヲ室耳漬
帝モ亦拾ヲ地ハ
敬農次[illegible]稲稈

好色一代男 8冊 WA9-3 08-018
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

農水ら和歌形式を詠む
詠歌の題は農家の年ハと者
共外農古い語ハ歌ハ
高くまた武州秩父郡
小行帝桃の歌流
月小垂こうの一帝之
案江戸手酒めしの一流

文枕といかいや東稀ら作一仲小
持合書ハうり彩式和集く蕉根
小ら陣ら帝稲田と挽葉ハ
梟耳讀くこうう分ら小ら小嫌
傍田ら案國ハうの星大弟ハ北沢
鍬ばかり手ものを敬ハ竹ら一
落一菴雨吟

好色一代男 8冊 WA9-3 08-019
国立国会図書館

京之
8
上

天和二壬戌歟陽月中旬

大坂安堂寺町五丁目心齋筋南横町

秋田屋市兵衛板行

好色一代男 8冊 WA9-3 08-020
国立国会図書館

好色一代男　8冊　WA9-3　08-021
国立国会図書館